

表紙の人

やすだ てつや
安田 哲也 氏



【プロフィール】

NPO法人 サウンドウッズ
代表理事

1970年 兵庫県丹波市生まれ
京都工芸繊維大学で建築とデザインを学び、建築設計事務所勤務を経て青年海外協力隊参加。

2005年 自身の建築設計活動の傍ら、地域産木材の活用と森林保全に取り組む「加古川流域森林資源活用検討協議会」の立ち上げに参加し、事務局代表を務める。

2009年 NPO法人サウンドウッズを設立し代表理事就任、現在に至る。

現在、大学等非常勤講師の他、木の建築と森づくりにかかる講演・講師・運営コーディネートに関わる。一級建築士。兵庫県建築士会会員。



NPO 法人
サウンドウッズ
(公式サイト)

「表紙の人」奈良の木シリーズ5回目は、奈良県 奈良の木ブランド課と共に「奈良の木でつくる非住宅建築技術者研修」を企画運営された、NPO 法人サウンドウッズ代表の安田様にインタビューしました。

■サウンドウッズはどのような仕事をされているのでしょうか？

“森と街の仲継ぎ”をしたいと思っていて、木材コーディネーターの育成、地域の木材を活用した公共施設の木造木質化プロジェクトの支援、自治体が取り組む人材育成事業の支援等展開しています。

■「奈良の木でつくる非住宅建築技術者研修」の受講者の反応は？

木材の供給、建築設計、施工等に携わる多くの方々に参加いただき、無事終了しました。ワークショップにも積極的に取り組んでいただき、非住宅木造建築に対する皆様の熱量を感じました。

奈良の人工林や製材所、原木市場も受講者と一緒に回ったのですが、さすがに奈良はブランド力があり、他の地域と違う点も気付きました。



研修会の様子

■研修を通じて感じられた、奈良県の林業関連の課題は？

林業関係者（供給側）と設計・施工者（利用側）がそれぞれの課題・弱みを互いに共有する議論に至っていない気がしています。非住宅建築の分野の木材利用は、まだ始まったばかり。課題に連携して取り組み、双方が弱みを補い合っていくことが必要と感じました。木材は工業材料と異なり供給・流通にもいろいろな制限があります。供給と需要の距離を縮めていければ良いと思います。

■建築士への期待をお聞かせください。

今までRC造やS造でつくることに慣れてしまっている私たち建築士は、生物材料である木材の特徴を理解せず、工場生産の材料と同じように扱いがちです。様々なサイズや品質にばらつきのある森の資源を、その特徴や生産量に配慮して建築にうまく活用できれば、まちづくりと地域の森づくりの両立に大切な役割が果たせるのではないかと期待しています。

サウンドウッズとしては、県内の建築士のみならず、非住宅分野の木材利用の実績・事例を共有する機会をつくり、「木の建築づくり」の社会的な意義をお伝えできるように取り組んでまいります。

■ありがとうございました。

【記：情報・広報委員会 伊藤吉郎】

【主催者より】

1. はじめに

本県では、平成24年に「公共建築物における“奈良の木”利用推進方針」を策定し、奈良県産材の利用促進を図ってきました。令和2年度より、奈良県建築士会さまのご協力のもと、木造と他構造（RC造）との建設コスト比較や、「奈良県産材を使用した中大規模公共建築物計画のための手引き」の作成等、出来ることから取り組んでまいりました。木造非住宅建築にかかる技術者の育成が課題解決の一つになると考え、実施を始めた取り組みが「奈良の木でつくる非住宅建築技術者研修」（以下、「研修」）です。

2. 研修の目的

県産材を使用した木造建築に意欲的な建築関係事業者、木材産業事業者及び行政関係者を対象に、木造非住宅建築に関する知識を習得する研修を開催し、県産材を活用した木造非住宅建築の設計・施工・提案ができる技術者の育成を目的としています。

3. 令和4年度 研修内容

令和4年度は、「木の建築専門家と行く 奈良の木の産地を巡る基礎講座」と称し、木造非住宅建築に関する基本的な知識を習得するための講座、グループワーク及び現場視察を4日間開催いたしました。



経験豊かな講師陣に、概論だけでなく、実際の施工事例をまじえて、誰でも使える工法や設計手法等も紹介いただきました。また、県内の木材流通（川上から川下）の現場を視察いただき、現場の方の意見を聞いていただきました。また、グループワークで出された意見として、林業・製材・職人・マネジメント分野における人材不足や、川上への利益還元の課題が明らかになりました。これらの課題解決のためには、山主に利益を還元し、かつ施主にも負担を掛けない建築を、川上～川下が共に考え、増やしていく必要があると考えられます。

計40名（内、18名が建築士）に受講いただきました。受講者アンケートの結果、90%の方が県産材利用による中大規模建築に関する理解の「変化があった・少し変化があった」と回答しており、研修の効果があったと考えております。

4. 今後の展望

脱炭素社会の実現に向けた地域材の活用が注目されつつあり、今後、非住宅建築物への地域材利用の機会が拡大すると予想されます。

今後も研修を継続し、知識の習得及び川上や川中との人脈構築に繋げていただきたいと思いますので、皆様のご参加のほど、よろしくお願い致します。

【記：奈良県奈良の木ブランド課（当時） 堀 恵未香】

【参加者の感想】 川下（施工者）の目

既に大都市では大手の総合建設業者や組織設計事務所による民間の大規模木造建築物が姿を現しています。奈良県下における中規模大規模建築物とは、その殆どが公共建築物であると想定され、そこに携わる技術者が原材料から製品に至るまでの、関わりを持つ事業者と共に研修を終えられたことが特徴的でした。特に事業者相互で直接会ってお話できたところは、多くの受講者には具体的な相談相手ができただけで、大変有意義であったと思います。

遡り、住宅産業には木造住宅における地域産材の活用が促されており、この十年で木材の自給率は向上しているとはいえ、林業を含めた業界では、継続をして生業として成立させるための好循環には、手放しで喜べる域にはまだ達していないと感じています。

消費者を含めた川下側の経済の指標は一年ごとでとらえ、二年から五年で行く先を見据えることに対して、原木供給の最も川上側に位置する林業が見据える経済循環の期間は短くて十五年から二十年とすると、経済活動としては、まったく歯車が合わないところにあると思います。かといって、川中の製材所および流通事業者の考え方は、立場上言えば至って川下側に位置しており、経済情勢や政策をもとにその仕組みを急いでも、川上側には受け入れられないことだと思います。

研修の中では、木材の調達や使用する部材の長さや断面について、或いは防火や断熱の性能についても特別なことを考えなくても施せる方向で指導されたことは非常に良かった点でした。

日ごろの業務の中では、材料の調達と木柄や奈良県産材の特徴をよく理解されている物件を手掛けていますので、中大規模に置き換えても、一連の作業が様々な特性を活かし、よく周知している者同士が携わる木造建築であれば、規模は違えども、想像とはかけ離れた事業ではなく、その延長線上で取り組めることが分かりました。

木材の利用促進を唱えたことに対する取り組みの方向性は全国の展開事例でも見えてきました。しかしながら、このような取り組みで総じて言えることは、政策や世の中の流行による俄か仕立ての仕組みではなく、継続して活動することだと思います。建築士も含め、同じ業界の異業種が各々で安定をして運営をすることが最も重要であり、浮き沈みなく、それぞれが安心して関わることが後世へ受け継ぐ大切な要素だと思います。好循環が継続された時には、何度も試みてきたにもかかわらず、うまく伝わらなかった歯車が、回転は違えどもかみ合うときが来るでしょう。

【記：住まいまちづくり委員会 伏見康司】

事前防災活動に関する勉強会 開催レポート

2月7日（火）に奈良市ならまちセンターで開催された「事前防災活動に関する勉強会」について、報告いたします。

「事前防災活動に関する勉強会」は、日本建築士会連合会にて、災害発生時の支援を効率良く行うため、平時より事前に備えておくための指針である「地震風水害対策用 建築士会事前防災活動指針」をもとに事前防災活動の概要及び内容と、今後の課題についての勉強会になります。勉強会には平日にも拘わらず 25 名が参加し、防災に対する意識の高さを感じました。



■ 講師紹介

講師は、日本建築士会連合会の防災まちづくり部会・災害対策委員会の委員として、「建築士会の災害対応」などの策定に携わられている 中西重裕 様にお願いました。

■ 勉強会の概要

建築士会事前防災活動指針は、災害が発生（以下、発災）したときに被災建築士会が、発災から復旧復興までに必要とされる災害支援活動と、発災後の迅速な活動をするために、平常時から取組が必要な内容と自治体との連携のきっかけとなる活動方法が示されています。

建築士会の強みの1つは、建築士事務所だけでなく工事会社の方も会員であることで、被災者の方に長期に持続的な支援活動ができることです。

発災から復旧復興までの建築士会の活動の指針は、被災～1ヶ月は応急危険度判定活動、罹災証明支援活動、事務局被災対策等／被災1ヶ月～6ヶ月は歴史的建造物の被災調査・修復支援、木造仮設住宅の建設、被災住宅の応急修理活動／被災6ヶ月～2年は木造復興住宅の建設支援、高台移転事業等事前対策の取組／被災～継続的には被災者の住宅相談。の10の活動

内容が示されており、特に「被災者の住宅相談」、「被災住宅の応急修理」については、どのような災害においても重要なテーマなので詳しく示されています。

また、発災から建築士が動きやすいように災害救助法に建築士の活動費用についての記載をしてもらえるように国に働きかけています。

■ 勉強会に参加して

勉強会に参加して、災害が発生した際の指針が示されていることで迅速に行動しやすいと感じました。

東海・東南海地震がいつ起きてもおかしくないと言われ続けており、災害が発生した時に自身がどのような行動をすれば良いのか想像できていませんでしたが、事前の活動の指針があることで、次の行動を想像しやすくなりました。

実際に被災者になった場合は、指針通りの行動はできない可能性もありますが、支援できる状況のときには、心強い指針だと感じます。

その他に印象的だったのは、仮設住宅から復興住宅にできるように仮設住宅を建設すること。そして、できるだけ被災前のコミュニティと同じコミュニティで移転すること。ということです。

仮設住宅のみの使用で建設すると1戸が小さくなりますが、その後、復興住宅として使用することを前提にした仮設住宅2戸を1戸へ改修し、復興住宅として使用することで、復興住宅を新築するより安価に部屋数や大きさの確保ができ、同じコミュニティを維持しやすいことで、被災者の健康面への配慮や安心感にも繋がりがやすいところが良いと感じました。

■ 結び

講師の中西様が一般社団法人和歌山県建築士会の副会長をされており、和歌山県の建築士会の方は防災意識が非常に高く、勉強され活動されていると感じました。奈良県は災害が少ない地域だと思い込んでいるところがあり、防災意識の違いに危機感を抱きました。

今後も防災や減災についての勉強会には積極的に参加して行きたいと考えています。

【記：教育・事業委員会 佐藤智之】



冊子「建築士会の災害対応」
のPDFデータはこちら

お知らせ

●令和5年度通常総会の日程

日時：令和5年5月19日（金）16：30～20：00
場所：ホテルリガール春日野（奈良市）
議事：令和4年度事業報告及び決算について
令和5年度事業計画及び予算について 他
※ 正会員の皆様は、ご案内しております出欠表を提出頂きますようお願いいたします。
残念ながら欠席される場合には、必ず委任状も提出頂きますようお願いいたします。

●年会費納入のお願い

本年度会費につきまして、未納の方は速やかにお振込み頂きますようお願いいたします。

●入会

高 俊 様（奈良支部）
島 有圭子 様（奈良支部）
西野 光泰 様（奈良支部）
福永 隼之 様（郡山支部）

よろしくお願いいたします。



●訃報

吉田 敏昭 様（奈良支部）
塚本 忠三 様（郡山支部）
関本 基次 様（宇陀支部）
中谷 恒雄 様（吉野支部）

ご冥福をお祈りいたします。



編集後記

本誌「表紙の人」は、奈良の木シリーズとして昨年の9月号から5回にわたりお届けしてきましたが、今号をもって最終回となりました。主に林業関係（川上、川中）の第一線で活躍されている方々にインタビューするなかで、木材の生産現場と流通について課題を探ってきました。そこで見えてきたのは、次のような現状でした。

- ・木材の売買価格が昭和年代に比べ大幅に低下している（ウッドショック後も改善せず）。
- ・伐採後の植林費用が賄えず、再造林にまでは至っていないことが多い。

・林業従事者自ら川下にアプローチして販路の拡大に努力している。

今月号の「表紙の人」安田様が言われているように、今後は川上・川中の林業・木材関係者と川下の設計者・施工者が、より協力し合い豊かな山林を子孫に残し、循環可能な社会として維持できるようになっていくことを切に望んでいます。そのためには我々建築士の役割がとても重要であると再認識しました。

【記：伊藤吉郎】

5月

19日（金）令和5年度通常総会



6月

14日（水）監理技術者講習
21日（水）建築士定期講習
25日（日）建築士の日 記念事業



士 會 奈 良 通巻 649 号

令和5年5月1日（発行隔月1回1日発行）

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333
<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 米村 博 昭
編集 （一社）奈良県建築士会 情報・広報委員会



情報・広報委員会

委員長	福田 成生	
副委員長	伊藤 吉郎	小西 直樹
委員	紀 陽介	平田 正裕
	門脇 直也	溜谷 剛
	永友 翔	松尾 憲治
	上柿 範兼	小松原寛俊
	洞 尚樹	押部 誠



他の追随を許さない唯一無二の
「講習システム」と「合格実績」

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会（No.1表示に関する実態調査報告書）に基づき掲載しております。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受験生は一切含まれておりません。 ※経道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、（公財）建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和4年度建築士学科試験に合格し、令和4年度建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

1級建築士試験関西エリア合格実績 No.1

令和4年度 1級建築士 学科+設計製図試験

関西エリア
ストレート
合格者
占有率

58.7%

関西エリアストレート合格者 271名中 /

当学院当年度受講生 159名（令和4年12月26日現在）

※関西エリア（2府4県：大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県）

令和4年度 1級建築士 設計製図試験

関西エリア
合格者
占有率

50.6%

関西エリア合格者 625名中 /

当学院当年度受講生 316名（令和4年12月26日現在）

学生 / 元受講生 / 提携企業社員 / 他講習生対象
受験生応援キャンペーンがスタート



合格実績No.1の総合資格学院が
受講料を大幅に引き下げます

詳細は
コチラ
→



総合資格学院

開講講座

建築士/建築・土木・管工事施工管理/設備・構造設計1級建築士/建築設備士/宅建/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

お問合せ先

奈良校 TEL:0742-30-1511